

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4091600256		
法人名	有限会社 やすらぎ		
事業所名	グループホーム いちょうの杜 やすらぎ		
所在地 (電話番号)	久留米市三潴町高三潴491-2 (電話) 0942-54-9000		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成19年11月16日	評価確定日	平成19年12月27日

【情報提供票より】(19年10月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年1月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤 11 人, 非常勤	人, 常勤換算 11 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	新築 / 改築
建物構造	木造 造り	
	階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,200 円 / 日	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要 (10月24日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.1 歳	最低	62 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉村医院、清水整形外科医院、松岡病院、福田病院、大石歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは小学校のすぐそばで、田園に囲まれたのどかな環境にあり、ゆったりと安心して過ごせる雰囲気を持っている。施設長をはじめ管理者、職員が理念を十分に理解し、共有している。「自分の親を入所させたいホームに」と、家族と同様に入居者に接し、自宅にいる時と変わらないような介護支援ができるように工夫をしている。充実した生活が送れるように、また安全で安心できる快適な生活が送れるように、入居者一人ひとりの生活を尊重している。ミーティングを通して、全職員が情報を共有しながら入居者のQOL向上のために努力をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初めての評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を基に、全スタッフで日々のケアについての見直しや意見交換などを行い、改善すべき点の把握が出来るように取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 9月から運営推進会議を開始しているが、区長や民生員、家族が参加されていない。今後、会議のメンバーを充実させ、グループホームを理解してもらうための啓発活動や、サービスの実際について活発な話し合いが行われるよう期待する。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 意見箱を設置し、意見や苦情不満はその都度、直接スタッフに相談出来るようにしている。それらを運営に反映できるよう、努力している。家族の会の立ち上げも早々に予定している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 開所にあたり、地域の方々への紹介・広報を兼ねて見学会を実施した。ホームでの行事への参加を家族や近隣の方に呼びかけているが、理念については啓発、広報などができていない状況である。地元の方々との具体的な交流や地域との連携については、今後の取り組みに期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「受容・傾聴・共感」という理念を念頭においてサービスを提供している。「自分の親を入所させたい施設に」という思いで理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、朝礼で読み上げたり、ミーティングの際に伝えたりするなどして共有し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への参加はこれからで、地域活動や地元の方々との具体的な交流についての取り組みは検討中である。11月に行われたみずま祭りには、地域からの参加も数名あった。		広報誌を配布したり、地域活動に参加したりするなどして、地域の人々との交流が活発になるように期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価により、全スタッフで意見交換やケアの見直しなどに取り組んでいるが、全ての職員が意義を理解しているわけではない。		今回の評価を機に、全職員が意義や目的の理解を深め、評価を活かす取り組みがされることに期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	9月から会議を開催し、助言や意見交換により改善点などの共有はできているが、区長や民生員、家族が参加されていない。地域の方にグループホームを理解してもらい取り組みが十分ではない。		運営推進会議のメンバーを充実させることにより、グループホームの理解を深めてもらい、サービスの実際などについての話し合いが活発になることを期待する。また、チラシ等を公共の場や病院に置かせてもらうなど、広報についても積極的に取り組むことに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の担当職員にもよく相談をしている。連携がよく取れており、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部の研修会に数名参加しているが、現在成年後見制度が必要な入居者がおらず、全職員が理解しているわけではない。		勉強会を行い、全職員が制度について理解を深めることに期待する。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりについては写真入りでホーム便りに載せ、金銭面・健康面についてはスタッフのコメントをつけて毎月郵送している。入居者の体調が悪いときには、その都度家族に電話連絡をしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。今までに投函はないが、管理者やスタッフへ直接相談がある。相談された内容は、運営に反映できるように努力している。今後、家族会を立ち上げる予定である。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、面会に来られた家族には伝えていたが、来られない家族には伝えていない。馴染みの職員が関わるようにするなど、利用者へのダメージが最小限になるように努力している。		職員の異動や離職について文書等で家族にも報告をするなど、不安感がないように配慮する取り組みに期待する。
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用募集にあたっては、年齢、性別関係なく必ず面接している。現在20代から60代までの幅広い年齢層の職員が働いており、男性職員もいる。管理者は、各職員が能力を發揮して生き生きと勤務が出来るように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日頃からミーティングなどで入居者に対する人権尊重について説明や指導をしているが、特別に勉強会などはしていない。		外部の研修等にも参加し、全スタッフへの人権教育や啓発活動に取り組む工夫に期待する。
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に、守るべき理念などの教育は行っているが、マニュアルや一人ひとりの教育目標がない。		段階に応じて計画的育成ができるようなマニュアルを作成するなど、各職員が目標を持って働けるような取り組みに期待する。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米の事業者協議会部会へ参加しているが、法人内の研修や交流会が多く、法人外との交流は少ない。		法人外事業者とのネットワークづくりに期待する。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心し、納得した上で入居できるように、主治医、相談者、家族とも話し合って事前に体験利用をしてもらうなど、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者に対して自分の家族のように接し、一緒に楽しみながら喜怒哀楽を共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族の話を良く聴き、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。困難な場合には、表情や会話などから希望を汲み取るように努力している。</p>		<p>入居者の生活歴を知るために自宅訪問を行うなど、情報収集の工夫に期待する。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族との話し合いによりニーズを把握し、スタッフと関係者の意見も参考にしながらケアプランを作成しているが、家族の確認印をもらっていない。</p>		<p>家族からの要望の把握だけに留まらず、計画について十分に説明し、理解を得て確認印をもらうような取り組みが望まれる。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態の変化や家族の要望がある場合では見直しを行っているが、定期的な見直しはしていない。</p>		<p>定期的に介護計画の見直しを行い、状態が変化したときはその都度、計画の変更や追加プランの作成をし、家族の同意を得るような取り組みが望まれる。</p>
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>その時々々の要望に応じて、柔軟な支援ができるよう常に心がけている。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の希望にあわせて受診援助をしている。かかりつけ医がいない場合は、入居者の状態に応じて家族と連絡を取りながら適切な医療が受けられるように支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入所時から終末期の対応について話をしている。看取りに関する方針もあり、全スタッフ共有しているが、終末期前の早い段階からの家族とかかりつけ医との話し合いができていない。</p>		<p>重度化、終末期以前の早い段階での意思確認や話し合いを行い、関係者全員が情報を共有できるようにすることが望まれる。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重している。個人情報の取り扱いには注意を払っており、記録等の取り扱いに関して家族の同意を得ている。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのその日の気分やペースに合わせ、無理をしない程度に散歩や買い物に出かけるなど、出来るだけ希望に添えるよう支援をしている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入所時に一人ひとりの好き嫌いを把握し、メニューの変更をすることもある。入居者はできる範囲で、皮むきや配膳の準備、食器洗いなどの手伝いをしている。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>希望にあわせて入浴の支援をしている。毎日入浴が可能であるが、入浴を敬遠される利用者が増えている。衛生面と安眠のために声をかけて出来るだけ入ってもらうように努力をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の水遣りや洗濯物たたみ、テーブル拭き、箸並べなど、一人ひとりの役割が自然にできており、日々の生活の中で楽しみや気晴らしができるよう、支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望に添って近隣の小学校の周りを散歩したり、お宮参りをしたりしている。また、車で、スーパーへの買い物や花見、道の駅、足湯など戸外への外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常時鍵はかけていない。2階の非常口の危険箇所のみ施錠している。全職員の理解があり、鍵をかけないケアの取り組みをしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員立ち会いのもと、年に2回避難訓練を実施している。利用者と一緒に、車椅子を使用した避難や2階からの避難などを実際に訓練している。		緊急時の協力が得られるように、近隣の方たちと共に避難訓練を行なう取り組みが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養状態や食習慣について、入所前から情報の把握に努めており、個人の状態に応じた支援をしている。栄養士によるカロリー計算がなされ、栄養面についてアドバイスを受けながら献立している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、危険のないように床に物を置かないようにしている。季節感を採り入れた掲示物が手作りされており、居心地良く過ごせている。ホーム設立1年を記念して、入居者と共にちぎり絵や貼り絵を作って玄関や共有の空間に飾っている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、タンス、消灯台、カーテンは備え付けであるが、その他は好みものを持ち込み、安心して過ごせている。寝具の貸し出しがあり、家族も部屋に宿泊できる。		